

赤十字ボランティアのための情報誌

RCV

Red Cross Volunteer

No. **83**
2026.02
February



受け継ぐ想い・ひらく未来！

赤十字ボランティアの活動の更なる推進を目指して

～私たちが大切にしたいこと～

- 1 各地域での取り組み
- 2 テーマ別の取り組み

この情報誌は、RCV編集委員
(ボランティア)の協力で作られています。
委員の声は編集後記に掲載しています！



千葉県

被災者支援で感じたことを
多くの人に伝えたい!

千葉県赤十字安全奉仕団

▶ P6

受け継ぐ思い

赤十字ボランティアの活動の 更なる推進を目指して

～私たちが大切にしたいこと～

日本赤十字社は、2027(令和9)年に創立150周年を迎えます。

近年、地震や気候変動に伴う気象災害の頻発化、激甚化、広域化への対応、少子高齢化や人口減少等による社会の変化に加え、人々のつながりが希薄になる中、孤立や孤独といった社会問題も深刻さを増しています。今後、支援ニーズの増加が見込まれる中で、届けられるサービスが減少することが、社会の大きな課題のひとつとなっています。

私たちは、このような時代だからこそ、ボランティアの力がこれまで以上に大きな助けになると考えていますが、赤十字奉仕団等ボランティアも、参加者の減少や認知度の向上等、全国的に共通する課題を抱えています。

大阪府

「気づき・考え・実行する」
未来のリーダーを育てる心強いボランティア!

大阪府支部 指導講師

▶ P4

滋賀県

男性も参加しやすい環境づくり!

滋賀県支部 地域赤十字奉仕団

▶ P4

ユース世代

特別対談：人道の実現に向けて
～想いは世代を超えてつながる!

国際赤十字ユース委員会代表と
日赤ユースボランティア

▶ P7

山形県

災害時の助け合いは、
日頃のコミュニケーションから!

赤十字奉仕団山形県支部委員会委員長・
舟形町堀内赤十字奉仕団委員長

▶ P5

情報をまとめて
みんなが見やすい
場所を作ろう!



私たちが大切

必要な人に
届ける

活動がさらに
多くの人が
環境

みんなの「できる」
「やりたい」に合わせた
声掛けをしよう!



ほかの団体とも
力を合わせて
活動しよう!



・ひらく未来!

コーディネーション

ボランティアによる
ボランティアのコーディネーション!

赤十字語学奉仕団
国際交流コーディネーター

▶ P7

みんなが
協力しやすい
しくみを作ろう!



にしたいこと

人道支援を
ために

活発になり、
参加しやすい
づくり

誰もが気兼ねなく
参加できるように
しよう!



活動を
たくさんの人に
伝えよう!



岩手県

楽しいから続く、楽しいから広がる!

岩手県支部 赤十字地域の絆ボランティア

▶ P5

鹿児島県

地域でのつながりを生かし、
入居者の安心・安全のために!

鹿児島県支部 特別養護老人ホーム錦江園
個人ボランティア

▶ P5

情報発信

大阪・関西万博の赤十字パビリオンを支えた
ボランティアの声を発信!

青年赤十字奉仕団万博チーム

▶ P6

赤十字奉仕団は1948(昭和23)年の誕生以来、多くの方々に支えられながら活動してきました。脈々と受け継がれてきた赤十字のボランティア活動を、これからも大切に引き継ぎながら、「赤十字があってよかった」と感じていただける存在であり続けたい。そして、赤十字の理念に賛同いただき、「困っている人のために何かしたい!」と思う全ての方とともに、必要としている人に人道支援を届けるために、私たちは今、主に6つの方策に力を入れていきたいと考えています。

今号では、「赤十字ボランティアの活動の更なる推進を目指して」をテーマに、活動の活性化と、誰もが参加できるための方策に関連する活動事例をご紹介します。



次のページから具体的な
活動を紹介します!



滋賀県



男性も参加しやすい環境づくり!

滋賀県支部 地域赤十字奉仕団

滋賀県では、全ての市町に地域赤十字奉仕団があり、団員増強を重点目標として取り組んでいます。この10年で団員数が3割以上減少する一方、男性団員は2倍以上に増加しており、その背景には、男性の参加を促すための体制整備を進めてきたことがあります。男性向け交流研修会の開催、男性団員の活動を紹介するガイドブックの作成、男女兼用のベストや帽子の制作を始め、具体的な取り組みが行われています。



男女兼用のベストと帽子

さらに、男性部会を結成し、炊き出し訓練や防災研修会、ロケットストーブの制作・配付、救急法の習得等、男性が特性を生かして活動できる場を設けています。男性同士が集うことで仲間づくりができ、参加しづかった男性の入団につながっています。まずは身近な方に勧めるといった働きかけの工夫や、役割を分担することで、男性が中核人材として関われる環境づくりを行っています。こうした対象に応じた具体的な取り組みが、今後の団員増強にも重要です。



具体的な活動のイメージが伝わるよう、男性団員が関わっている活動を紹介



大阪府



「気づき・考え・実行する」未来のリーダーを育てる心強いボランティア!

大阪府支部 指導講師 永田さん



永田さん

青少年赤十字の特徴的なプログラム「リーダーシップ・トレーニング・センター」(以下、トレセン)は、子どもたちが「気づき・考え・実行する」力を育み、未来の社会を支えるリーダーシップを育成する場として、毎年全国で開催されています。大阪府では令和7年度、約60人の小・中・高校生が参加し、赤十字の知識や技術を学びながら、自主性や他者への思いやりの心を身に付けました。トレセンに長く関わって来られた指導講師の永田さんにお話を伺いました。

トレセンには、青少年赤十字加盟校の教員を始め、青少年赤十字賛助奉仕団員、青年赤十字奉仕団員、救急法指導員等の様々な赤十字ボランティアが協力し、自らの知識や経験を生かしてプログラムを運営しています。青少年赤十字賛助奉仕団員でもある永田さんは「参加した子どもたちには、ここでの学びを学校や地域での気づきや行動につなげて行ってほしい」と語ります。長年教員を務めた経験からも、「教員にとっては指導力向上の機会になる。『指示のない生活』や『自発性に基づく活動』というアイデアを学級運営にも取り入れてほしい」と期待を膨らませています。

先輩たちが紡いできた「赤十字の心」が受け継がれ、未来へ広がっていく。トレセンは、その想いをつなぐ場でもあります。



様々な赤十字ボランティアが参加者の学びを支援！
近い将来、一緒に活動できることを楽しみにしています



山形県



災害時の助け合いは、日頃のコミュニケーションから！

赤十字奉仕団山形県支部委員会委員長・舟形町堀内赤十字奉仕団委員長 坂上さん

山形県北部の豪雪地帯、舟形町堀内地区では、2024（令和6）年7月25日の大雨により最上川が内水氾濫し、地域はかつてない被害を受けました。災害時の支援活動について、坂上さんにお話を伺いました。

当奉仕団は、もともと若い父親の集まりを母体として発足し、地域のニーズに合わせて活動してきました。現在は、避難訓練や高齢者宅の訪問、清掃活動、お祭りへの参加、冬季の除雪作業等、多様な活動を通じて、日頃から地域を支えています。



大雨被害の様子

今回の大雨災害では、避難誘導や炊き出しに加え、公民館を臨時の避難所として開放し、地元民生委員と共に避難者の見守りを行いました。

舟形町では人口減少が進む中、回覧板を回す際の聞き取りや「今日の雪すべっがら」、「雪かだづけ転ばねよう足、腰気いつけでなあ」等と声を掛け合う日常的な気遣いが続けられており、日頃からの支え合い、コミュニケーションや協力が災害時にも力となりました。活動中に見られる住民の笑顔が最大の活力になっています。



坂上さん



岩手県



楽しいから続く、楽しいから広がる！

「キッズお仕事フェスタ」で活動する長山さん（左）

岩手県支部 赤十字地域の絆ボランティア 鈴木さん・長山さん

「とにかく楽しい。その一言に尽きます」。そう語るのは、岩手県支部赤十字地域の絆ボランティアとして活動する鈴木さんと長山さんです。「絆ボランティア」は、より住みやすい地域の実現を目指して活動する、岩手県支部の個人ボランティア。活動内容は「すこやかサロン」や「キッズお仕事フェスタ」等、地域に寄り添う身近なものばかりです。「いつでも、気軽に、好きなだけ、人のために」という共通の思いが、二人を活動へと導きました。

鈴木さんは東日本大震災をきっかけに、長山さんは自身の子育て中に助けられた経験から、講習への参加を契機に「絆ボランティア」に参加しました。手を添え、声をかけ、笑顔を交わすことで誰かの力になれる。参加者の笑顔や「ありがとう」の言葉が何よりの原動力で、「助けているつもりが、実は元気をもらっている」と長山さんは話します。鈴木さんは、部活動のような楽しさと居心地の良さが次の参加につながると言います。この前向きな連鎖が、赤十字の思いを一人ひとりの行動へ、そして誰かの笑顔を次の誰かへとつなぎ、ボランティア活動の輪を広げています。



鈴木さん



長山さん



AEDの使い方を伝える鈴木さん（右）



鹿児島県



地域でのつながりを生かし、入居者の安心・安全のために！

鹿児島県支部 特別養護老人ホーム錦江園 個人ボランティア



地道な支援活動が入居者の方々の生活を支えています

日本赤十字社の社会福祉施設では、学生から社会人、シニア層まで幅広い世代の方がボランティアとして参加し、趣味や特技を生かした活動や日常生活のサポートを行っています。このボランティア活動は、個人でも気軽に参加しやすい点が特徴です。

鹿児島市の特別養護老人ホーム錦江園では、個人ボランティアが車椅子の清掃を行っています。入居者は毎日車椅子で移動するため、タイヤや手すりには汚れが溜まりやすく、職員だけで約100台の車椅子の清掃を行うのは困難です。ボランティアの協力により、入居者に安心して快適な生活環境を提供することができると同時に、地域住民が身近な場で社会に貢献できる機会にもなっています。



千葉県



被災者支援で感じたことを多くの人に伝えたい!

千葉県赤十字安全奉仕団 加藤さん・山下さん



加藤さん



山下さん

千葉県赤十字安全奉仕団の加藤さんと山下さんは、令和6年能登半島地震で被災された方を対象に、足湯やハンドケア、頭と体を同時に使うコグニサイズ等の健康支援活動を行いました。同奉仕団は1973(昭和48)年に結成され、救急法等の講習指導員で構成されています。

加藤さんは、養護教諭としての経験から入団し、日頃の講習で培った知識や技術を被災地での支援活動に活かしました。

二人が最も重視したのは、被災者の「想い」を受け止めて寄り添うこと。リラクゼーションを通じて「忘れていない、ずっと寄り添っている」という気持ちを被災者に伝え、人のぬくもりや言葉の力を改めて感じたと言います。山下さんは「災害は明日は我が身、お互い様。活動を通して学ぶことばかり。」と語ります。加藤さんは「より多くの人に支援活動の輪に加わってほしい」と願っています。

今後は多くの仲間に活動を伝えることで、支援の継続と次世代への橋渡しにつなげていく考えです。



日本赤十字社のスローガン「人間を救うのは、人間だ。」のとおり、人の持つぬくもりや言葉が持つ力を実感した活動でした

テーマ別の取り組み



情報発信

大阪・関西万博の赤十字パビリオンを支えたボランティアの声を発信!

青年赤十字奉仕団による大阪・関西万博を活用したボランティア活動推進チーム

大阪・関西万博の「国際赤十字・赤新月運動館(以下、赤十字パビリオン)」では、多くの赤十字ボランティアが活躍した中、青年赤十字奉仕団による大阪・関西万博を活用したボランティア活動推進チーム(以下、青奉万博チーム)は、万博を機に赤十字への理解を広めることを目的としてInstagramで情報を発信しました。ここでは、青奉万博チームが取材・発信したボランティア3人の声を紹介します。赤十字パビリオンのテーマは「人間を救うのは、人間だ。」。来館者と「誰かの力になりたい」という思いを共有できる場で活動できたことにやりがいを感じたと語っています。

普段は赤十字救急法講習の指導を行っており、赤十字パビリオンでは案内を担当しました。多くの方がメッセージウォールに思いを残されましたが、その思いが一步を踏み出すきっかけになれば、と思いながら活動しました。これからも人とのつながりを大切に、救急法の普及活動を続けていきたいです。



野間さん

青年赤十字奉仕団で、献血広報活動や青少年赤十字のイベントに参加しています。万博では、私の説明が「勉強になった」と言っていただき、やりがいを感じました。ボランティア活動を通して得た、相手に寄り添う姿勢や、状況を見て自ら動く力を、今後の人生にも生かしていきたいと思えます。



黒部さん

日頃の活動では、バルーンアートを通じて特に若い世代への赤十字広報に力を入れています。万博での経験を通して、赤十字の活動は「国境を越えて人々をつなげている」と実感しました。車いす利用者や視覚・聴覚に障害のある方、海外から来た方を含む様々な来館者と接し、誰もが安心して関わり合える活動と、赤十字精神の普及を目指したいと強く思いました。



潮さん



ボランティアによるボランティアのコーディネーション!

赤十字語学奉仕団 国際交流コーディネーター 奥野さん・小高さん



毎回悩みながらも、イベントを作り上げるのが楽しいと語る奥野さん(左)と小高さん(右)

赤十字語学奉仕団は、中学生から80代までの多様なメンバーが「語学」を生かして活動しています。日本赤十字社が隔年で主催する「青少年赤十字国際交流集会」では、企画・準備から当日の運営・通訳まで幅広い役割を担っています。アジア・大洋州地域等と日本全国から選ばれた73人の参加者が、ディスカッション等を通じて相互理解を深める5日間の集会は、半年間にも及ぶ準備に支えられています。言語や文化の違いがある中で、参加者がいかに議論しやすい環境を整えるか。コーディネーターを務めた奥野さんと小高さんは、この大規模イベントに携わった、年齢も経験も異なる約60人のボランティアの「パイプ役・まとめ役」として、認識の統一や情報提供に奔走しました。

「参加者が別れを惜しんで涙する瞬間を見たい」と語る奥野さんは、参加者に“一生の思い出を贈る”気持ちで取り組んでいます。「参加者である高校生の成長を支える経験が、自分の人生も豊かにする」と語る小高さんは、「実は英語は不得意」と笑いつつも、国際交流の熱気に魅了され、活動に情熱を注ぎ続けています。

「気候変動」や「人道危機」をテーマに交流を深めた参加者とボランティア等スタッフ



特別対談：人道の実現に向けて～想いは世代を超えてつながる!

国際赤十字ユース委員会代表と日赤ユースボランティア

中学生の頃からマレーシア赤新月社のユースボランティアとして活動するミシェルさんは、現在、国際赤十字・赤新月社連盟ユース委員会代表として、多様な価値観をつなぎ、未来をひらく役割を担っています。赤十字ユース委員会に所属する山口さんも、国内外のユースを結ぶパイプ役として、仲間と協力しながらユースの活動の課題解決に取り組んでいます。

赤十字の特徴について尋ねると、ミシェルさんは「多様性」と答えます。活動の内容は様々ですが、人道を実現したいという「変わらぬ想い」がどこにでも息づいている、と。大阪・関西万博の赤十字パビリオンでは、赤十字が世界にとって“希望の光”であることを実感したと振り返ります。

ユース世代は社会意識が高く、成果を求める一方で生活との両立が難しい面もありますが、「赤十字での良い経験があれば、人生の節目で一度赤十字から離れても、また活動に戻ってきてくれるはず」と期待を寄せます。

最後に「若い世代は仲間と想いを共有して行動を。上の世代は経験を伝えながら若者の声に耳を傾けてください。世代を超えて想いを受け継ぎ、ともに未来をひらいていきましょう」と呼びかけました。

通訳を務めた赤十字語学奉仕団の山中さん(左)とミシェルさんを囲む山口さん(右)



「赤十字ボランティアはお互い学び合うことができる」と語るミシェルさん(右)



活動紹介を振り返って



ボランティア活動推進室長 森 正尚

今号で紹介された取り組みはどれも素晴らしく、各地域で新しい活動を作り上げていく大きなヒントになると思います。

赤十字ボランティアの活動の3本柱「災害救護・防災、自助・互助の促進・地域福祉の向上、赤十字思想の普及・会員の増強」をこれからも意識して、一緒に活動を広げていきましょう!

赤十字ボランティア活動の3本柱





周年行事・表彰

ボランティアの力が、人と社会をつなぐ 

赤十字ボランティアは、誰もが参加できる活動です。一人ひとりの「やってみたい」という思いが支援の輪を広げ、それぞれの継続した活動が社会の未来を形づくっていきます。

～赤十字語学奉仕団 創立60周年記念式典～

11月16日、日本赤十字社本社にて68人が参加して開催されました。「できるかできないかではない。大切なのは、したかしたくないか、するかしないか。明日は今日、つくられる」という創設者・橋本祐子・元日本赤十字社青少年課長の言葉は、今も団員の行動指針として受け継がれています。「赤十字のボランティア活動によって人生が変わった」という参加者の声も多く、活動の積み重ねが人の生き方を支えてきたことが感じられました。



～日本大学学生赤十字奉仕団 創立50周年記念式典・祝賀会～

11月9日に現役団員やOB・OGら約110人が集い、半世紀にわたる活動の歩みを振り返りました。創立当初から変わらず受け継いできた、人に寄り添う姿勢を今後も大切にしていける決意が共有されました。



～公益財団法人鉄道弘済会 第55回記念「朗読録音奉仕者感謝行事」～

録音図書を通じ、視覚障害者の学びと暮らしを支える地道な活動が高く評価され、札幌市音訳赤十字奉仕団の佐藤洋子さんが全国表彰を受賞しました。

録音図書は、多くの時間と緻密かつ正確な作業を必要とし、製作者の深い理解があってこそ完成します。全国の視覚支援ボランティアの長年の功績に改めて敬意を表するとともに、今回の受賞をきっかけとして、今後の録音図書の更なる充実と発展が期待されます。



読者の皆さんの声

大募集!

より良い情報誌にするために、
ぜひ皆さまのご意見をお聞かせください!

二次元コードから
ご回答いただけます



- 1 今号の記事へのご意見・ご感想
- 2 こんな活動が知りたい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな?」等、
知りたい活動はありませんか?
- 3 活動を全国に伝えたい!
紹介したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- 4 RCVをメール配信しています!
次号からの配信をご希望の方は、
送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①～④をご記入のうえ、
rc-volunteer@jrc.or.jp までメールにてお送りください。
プレゼントに応募される場合は、
送付先の郵便番号、ご住所、お名前も併せてご記載ください。

郵送の場合は

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課 宛

PRESENT

抽選で
30名様に

ハートラちゃん
クリアファイル
をプレゼント!

令和8年8月31日(月)必着



RCVバックナンバー
はこちらから

全国の様々なボランティア活動満載!!
活動のヒントを探しませんか?



赤十字RCV

編集後記



今号も赤十字ボランティアの皆さまと編集しました!
編集委員の声を掲載いたします

編集委員としての活動を通して、現場の裏側やボランティアの熱さを実感しました。一員として活動できた誇りを大切に、今後も継続的にこの活動に関わっていきたいです。(寺嶋 里桜)

山形県舟形町での豪雨災害対応取材し、地区の伝統と人の温情を感じました。「人間を救うのは、人間だ。」という精神のもと、多くの人を幸せにする仕事をしたいです。(半野 宏次郎)

RCVの取材を通じ、ボランティア活動の現場で生まれる人と人との温かなつながりを実感しました。本冊子がその思いに触れる一歩となれば幸いです。(宮崎 晶子)

日赤150周年に向けた取り組みが全国の仲間へ広がり、皆でその先へ進んでいく力となりますように。このテーマにボランティアとして関わられたことを心から嬉しく思います。(宮本 佳蓮)